



For Teen's

2025年8月号

GOTANDA LIBRARY TIMES



今月のテーマ：戦争のない未来を。

『光のうつしえ 廣島 ヒロシマ』

Y913/ク



廣島』

くつき しょう
朽木 祥 / 作

講談社

夏の夕暮れ、赤や緑の色紙で貼られたいくつもの灯籠が川面にきらめく。
1945年8月6日、広島上空で原子爆弾が炸裂し、多くの命が一瞬にして消えた。ある年の灯籠流しの夜、見知らぬ女性に声を掛けられた小学6年生の希未（のぞみ）。その話をした夜、母は一人で泣いていた。父や母、美術部の顧問の先生などそれぞれが、胸の奥で決して忘れることができなかった大切な人たちへの想い。「あのときああしていれば・・・」、「あんなことを言わなければ・・・」、悔やんでも悔やみきれない切ない思いが胸をうつ。
第63回小学館児童出版文化賞受賞作。

タイトル	作者	出版社	請求記号
『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』	しおみ なつえ 汐見 夏衛	スターツ出版	Y913/シ
『ある晴れた夏の朝』	こでまり 小手鞠 るい	偕成社	Y913/コ
『アウシュヴィッツの図書係』	アントニオ・G.イトウル ベ (著), 小原 京子 (訳)	集英社	Y963/イ



『この世は生きる価値がある』

Y913/ハ

長谷川まりる/作 ポプラ社

主人公は、人間の世界を知らない「魂」。ある時、ある中学2年生男子の体に飛び込み、季節がひとめぐりする間だけその子として生きることになる。聞いて懂れていた世界で、最初は見ること、やること、すべてがキラキラしていたけれど、やがて人と交わるうちに、どうしようもできない苦しい気持ちにも襲われ——。悩みや痛みにも苦しんでも、生きたいと思える日常があることが感動とともに伝わってくる、新しい切り口で青春を描いた物語。

